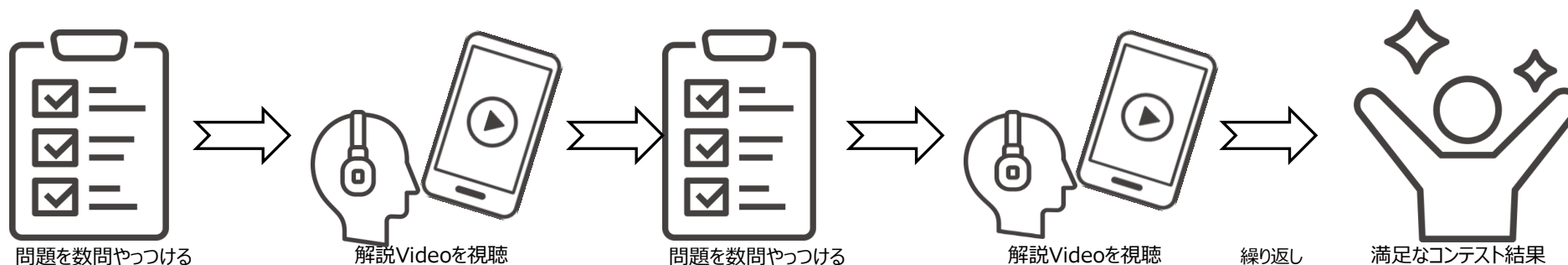


ToTopクラス問題集 to Spring Summer2025

ToTopクラス問題集は、会計実務に耐えうる未来のアカウントを輩出すべく、ネット試験の**日商2級**合格を短期で目指す問題演習に特化したコンテンツである。

Industrial Bookkeeping



signature :

	演習No.	issue	
Part1	工業簿記総論	1-1	✓製造原価、販売費、一般管理費の区分け
		1-2	✓工業簿記の勘定連絡図
		1-3	✓製品との関連における分類によって示す製造原価報告書と形態別分類によって示す製造原価報告書
Part2	材料費会計	2-1	✓製品との関連における材料費の分類と機能別による材料費の分類
		2-2	✓材料の購入
		2-3	✓材料副費の予定配賦
		2-4	✓移動平均法による材料の消費
			✓先入先出法による材料の消費
		2-5	✓予定消費価格による材料消費と材料消費価格差異
2-6	✓棚卸減耗の仕訳		
Part3	労務費会計	3-1	✓製品との関連における労務の分類と機能別による労務費の分類
		3-2	✓賃金支払いの仕訳
		3-3	✓給与計算期間と原価計算期間のズレ
		3-4	✓予定賃率による労務の消費と賃率差異
Part4	経費会計	4-1	✓間接経費の消費（支払経費、測定経費、月割経費、発生経費）
		4-2	✓外注加工（無償支給、直接経費）
Part5	製造間接費会計	5-1	✓実際配賦率の算定と実際配賦
		5-2	✓いろいろな基準操業度（実際の生産能力と期待実際操業度）
		5-3	✓予定配賦率の算定と予定配賦
		5-4	✓予算差異と操業度差異
Part6	部門別計算	6-1	✓第1次集計
		6-2	✓第2次集計（直接配賦法）
		6-3	✓第2次集計（簡便な相互配賦法）
		6-4	✓第1次集計+第2次集計、製造部門費の予定配賦
Part7	個別原価計算	7-1	✓製造直接費の直課と製造間接費の配賦
			✓原価計算表の作成
			✓仕掛品勘定の記入
7-2	✓補修		
Part8	総合原価計算（総論）	8-1	✓材料の始点投入
			✓材料の平均投入
			✓材料の途中投入
		8-2	✓加工費が予定配賦されている場合
		8-3	✓仕損費の完成品のみ負担（評価額あり）（平均法）
✓仕損費の両者負担（評価額あり）（平均法）			
8-4	✓仕損費の完成品のみ負担（評価額あり）（先入先出法）		
	✓仕損費の両者負担（評価額あり）（先入先出法）		
Part9	総合原価計算（工程別）	9-1	✓累加法
			✓半製品がある場合
Part10	組別総合原価計算	10-1	✓組別総合原価計算の特徴
			✓各組製品の完成品原価の算定
Part11	等級別総合原価計算	11-1	✓等級別総合原価計算の特徴
			✓各等級製品の完成品原価の算定
Part12	総合原価計算（副産物）	12-1	✓終点で副産物が分離（評価額あり）
			12-2
Part13	標準原価計算	13-1	✓標準原価の計算
			✓勘定記入の方法（パーシャル・プラン、シングル・プラン）
		13-3	✓直接材料費と直接労務費と製造間接費（公式法変動予算）の分析
		13-4	✓製造間接費（固定予算）の分析
Part14	原価差異の会計処理	14-1	✓標準原価計算の財務諸表

	演習No.	issue
Part15 直接原価計算	15-1	<input checked="" type="checkbox"/> 全部原価計算と直接原価計算の損益計算書作成 <input checked="" type="checkbox"/> 固定費調整
Part16 本社工場会計	16-1	<input checked="" type="checkbox"/> 本社工場間取引の仕訳 <input checked="" type="checkbox"/> 内部利益の控除
	16-2	<input checked="" type="checkbox"/> 工場から本社への発送（工場側で製品勘定が無いケース）
	16-3	<input checked="" type="checkbox"/> 組別総合原価計算と本社工場会計
Part17 CVP分析	17-1	<input checked="" type="checkbox"/> 高低点法による原価の固定分解
	17-2	<input checked="" type="checkbox"/> BEP
		<input checked="" type="checkbox"/> M/S
		<input checked="" type="checkbox"/> DOL
17-3	<input checked="" type="checkbox"/> BES <input checked="" type="checkbox"/> 目標営業利益を達成するための計算 <input checked="" type="checkbox"/> 感度分析	
Part18 予算管理会計（総論と予算編成）	18-1	<input checked="" type="checkbox"/> 「短期利益計画」と「予算編成」という用語



各論演習 1-1

issue ✓ 製造原価、販売費、一般管理費の区分け

問1)

下記の項目について、原価計算上、原価に算入され、しかも製造原価となる項目には1、販売費となる項目には2、一般管理費となる項目には3を記入しなさい。

- ① 製品の原材料消費額
- ② 工場の工具に対する賃金
- ③ 工場の減価償却費
- ④ 工場の運動会において、授与する商品の購入費用
- ⑤ 製品にそのまま取り付ける部品の消費額
- ⑥ 会社の役員に対して支払われる賞与金（引当金計上額）
- ⑦ 本社備品の減価償却費
- ⑧ 工員のための華道・茶道講師料
- ⑨ 工場事務職員のパソコン研修費用
- ⑩ 製品出荷運送費
- ⑪ 通常発生する程度の液体材料に係る蒸発分の金額

解1)

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	

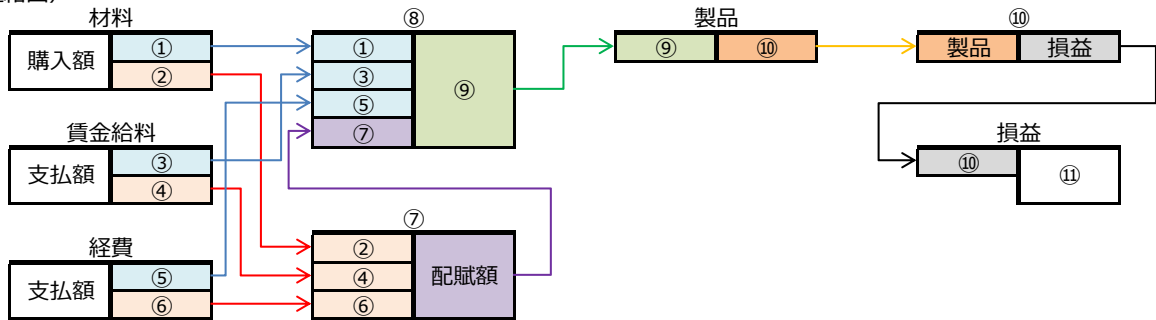
各論演習 1-2

issue ✓工業簿記の勘定連絡図

問1)

下記の勘定連絡図の①から⑪に入る適切な語句を語群より選びなさい。

(勘定連絡図)



(語群)

- A製品 B仕掛品 C売上高 D売上原価 E完成品原価 F直接材料費 G直接労務費 H直接経費
I間接材料費 J間接労務費 K間接経費 L製造間接費

解1)

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	

各論演習 1-3

issue ✓ 製品との関連における分類によって示す製造原価報告書と形態別分類によって示す製造原価報告書

問1)

グレグスン工業株式会社の以下の資料にもとづき、当期総製造費用を、①形態別分類によって示す製造原価報告書と②製品との関連における分類によって示す製造原価報告書を作成しなさい。(単位100万円)

(資料)

1. 棚卸資産

	期首有高	当期仕入高	期末有高
直接材料	30	500	20
間接材料	10	140	24
仕掛品	510	-	540

2. 労務費

直接労務費	320
間接労務費	88

3. 経費

間接経費	220
------	-----

解1)

① 製造原価報告書 (形態別分類)

	製造原価報告書		(単位: 百万円)
I 材料費			
II 労務費			
III 経費			
当期総製造費用			
期首仕掛品棚卸高			
合計			
期末仕掛品棚卸高			
当期製品製造原価			

② 製造原価報告書 (製品との関連における分類)

	製造原価報告書		(単位: 百万円)
I 直接材料費			
II 直接労務費			
III 製造間接費			
間接材料費			
間接労務費			
間接経費			
当期総製造費用			
期首仕掛品棚卸高			
合計			
期末仕掛品棚卸高			
当期製品製造原価			



各論演習 2-1

issue ✓ 製品との関連における材料費の分類と機能別による材料費の分類

問1)

自動車メーカーのヒューイモーターにおける下記「材料費の分類表」について、空欄の費用科目や具体例を語群から選び完成させなさい。

	製品との関連 における分類	機能別の分類	我が社の具体例
材料費	①	主要材料費	ボディの鋼板
		②	⑤
		③	補修用のシートの生地
	間接材料費	工場消耗品費	⑥
		④	スパナ、プラスドライバー、机、測定器具

<語群>

補助材料費 ・ 消耗工具器具備品費 ・ 直接材料費 ・ 買入部品費 ・ タイヤ、ガラス
 ・ 手袋、電球、石鹼

解1)

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	



各論演習 2-2

issue ✓ 材料の購入

問1)

株式会社アイザの下記の取引について、仕訳を示しなさい。

- ① X材料2,400kg（1kgあたり13.75円）を掛けて購入した。なお、運送会社に対する引取運賃を2,800円、移動中の保険料を200円は現金で支払った。
- ② Y材料300枚（1枚あたり110円）を掛けて購入した。
- ③ 上記のY材料3枚が品質不良であるため返品した。

解1)

	借方		貸方	
①				
②				
③				

各論演習 2-3

issue ✓ 材料副費の予定配賦

問1)

次の①から④について仕訳を示し、与えられた勘定の空欄を埋めなさい。なお、当工場では材料の受入れに際して、材料の購入代価の5%を材料副費として予定配賦している。

- ① 11月に、購入代価246,900円で材料を掛けて購入した。また、材料副費を予定配賦した。
- ② 11月の材料副費の実際発生額16,666円を現金で支払った。
- ③ 11月における材料副費の予定配賦額と実際発生額の差額を材料副費差異勘定へ振り替えた。
- ④ 3月末の会計年度末に、材料副費差異の残高を売上原価勘定に振り替えた。なお、当年度における材料副費差異の発生は、11月のみであった。

解1)

	借方	貸方
① 11月材料購入時		
② 11月材料副費支払時		
③ 11月差異の認識		
④ 3月差異の会計処理		

材料

借方	貸方

材料副費

借方	貸方

材料副費差異

借方	貸方

売上原価

借方	貸方



各論演習 2-4

issue ✓ 移動平均法による材料の消費 ✓ 先入先出法による材料の消費

問1)

飲料メーカーセントクリアの次のA原料（天然水）に関する取引にもとづいて、移動平均法によって材料元帳を記入し、当月消費高および帳簿棚卸高を答えなさい。

6月1日	前月繰越	200 ℓ	@500円
6日	消費高	150 ℓ	
16日	掛仕入高	800 ℓ	@585円
24日	消費高	700 ℓ	

問2)

飲料メーカーセントクリアの次のB原料（茶葉）に関する取引にもとづいて、先入先出法によって材料元帳を記入し、当月消費高および帳簿棚卸高を答えなさい。

6月1日	前月繰越	200袋	@500円
6日	消費高	150袋	
16日	掛仕入高	800袋	@585円
24日	消費高	700袋	

解1)

材料元帳
A原料

(単位：ℓ・円)

移動平均法

日付	摘要	受入			払出			残高			
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	
6	1	前月繰越	200	500	100,000				200	500	100,000
	30	次月繰越									

当月消費高 円

帳簿棚卸高 円

解2)

材料元帳
B原料

(単位：袋・円)

先入先出法

日付	摘要	受入			払出			残高			
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	
6	1	前月繰越	200	500	100,000				200	500	100,000
	30	次月繰越									

当月消費高 円

帳簿棚卸高 円



各論演習 2-5

issue	✓ 予定消費価格による材料消費と材料消費価格差異
-------	--------------------------

問1)

株式会社アイザの以下の一連の取引について仕訳し、与えられた勘定の空欄を埋めなさい。なお、仕訳すべきものが無い場合は、「仕訳なし」と記入すること。

- ① 当月は、材料を次のように消費した。なお、予定消費価格は@13円であった。
直接材料分：2,200kg
間接材料分：300kg
- ② 当月の材料の実際消費額を平均法で計算した。前月からの繰越分は600kg@10円、当月購入分は2,400kg@15円であった。
- ③ 予定消費額と実際消費額との差額を材料消費価格差異勘定へ振り替えた。

解1)

	借方	貸方
①		
②		
③		

材料		
前月繰越	6,000	仕掛品
買掛金	36,000	製造間接費
		材料消費価格差異
		次月繰越
	42,000	

仕掛品	

製造間接費	

材料消費価格差異	



各論演習 2-6

issue ✓ 棚卸減耗の仕訳

問1)

株式会社アイザの主要材料Aの月末帳簿棚卸高は7,000円（500kg×@14円）であった。一方、月末に材料Aの实地棚卸を行ったところ、在庫量は498kgであった。なお、材料の減耗量は正常な範囲内である。

棚卸減耗に係る仕訳を示しなさい。

<使用できる勘定科目>

材料 仕掛品 製造間接費

解1)

借方	貸方

各論演習 3-1

issue ✓ 製品との関連における労務の分類と機能別による労務費の分類

問1)

労務費を、製品との関連における分類と機能別に分類した勘定科目例と登場人物で整理した下記の表について、空欄を語群より選び完成させなさい。

	製品との関連 における分類	機能別の分類 の例	登場人物
労務費	直接労務費	直接賃金	⑤
	①	間接作業賃金	
		②	職員
		間接工賃金	
		③	工員（直接工・間接工）と職員
		雑給	
		従業員賞与手当	
	④		
福利費			

<語群>

間接労務費 ・ 直接工 ・ 間接工 ・ 退職給付引当金繰入 ・ 手待賃金 ・ 給料

解1)

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	

各論演習 3-2

issue ✓賃金支払いの仕訳

問1)

リドリング工業株式会社ノーフォーク工場組立部における当月の下記賃金台帳にもとづき、ヒルトン・キュビット氏に係る賃金支払いの仕訳を示しなさい。

6月

賃金台帳

リドリング工業(株) ノーフォーク工場 組立部

社員番号	氏名	基本賃金			加給金	支払賃金	諸手当	支給総額	控除額			差引現金支給額
		時間	賃率	金額	定時間外作業手当		通勤手当		社会保険料	所得税・住民税	計	
120	ヒルトン・キュビット	150	@1,000	150,000	10,000	160,000	20,000	180,000	6,000	12,000	18,000	162,000
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

解1)

借方		貸方	

各論演習 3-3

issue	✓ 給与計算期間と原価計算期間のズレ
-------	--------------------

問1)

次の①から④について仕訳を示し、与えられた勘定の空欄を埋めなさい。

- ① 前月末払額（7月26日～7月31日）は2,800,000円であり、再振替仕訳を行った。
- ② 当月支払賃金（7月26日～8月25日）は、17,360,000円であり、預り金2,200,000円を差し引き、9月5日に現金で支払った。
- ③ 当月の消費賃金（8月1日～8月31日）は17,900,000円であり、直接労務費が12,345,000円、残りが間接労務費である。
- ④ 当月末払額（8月26日～8月31日）は3,340,000円であり、賃金の当月末払分を計上した。

解1)

	借方	貸方
①		
②		
③		
④		

賃金

	仕掛品
	製造間接費

未払賃金

	前月繰越	2,800,000
次月繰越		



各論演習 3-4

issue ✓ 予定賃率による労務の消費と賃率差異

問1)

当社(マーチン製作所)の当月における直接工、間接工の資料をもとに、①解答用紙にそって仕訳を記入し、また、②直接労務費、間接労務費、賃率差異を答えなさい。なお、賃金の予定賃率は1時間当たり2,000円である。

(資料1) 当月の直接工、間接工の時間合計

勤務時間(拘束時間) :			
2,000時間			
就業時間 :			休憩時間 :
1750時間			250時間
実働時間 :		手待時間 :	
1,660時間		90時間	
直接作業時間 :		間接作業時間 :	
800時間		860時間	
加工時間 :		段取時間 :	
750時間		50時間	
製品Xの加工時間 :	製品Yの加工時間 :		
520時間	230時間		

(資料2) 当月の賃金支払い状況

当月の賃金支払額 : 3,611,111円
 当月の賃金未払額 : 582,994円
 なお、前月は706,450円の賃金が未払いである。

解1)

	借方	貸方
① 前月末払の再振替		
賃金の支払		
当月未払		
仕掛品と製造間接費への振替		
賃率差異の振替		

②

直接労務費

円

間接労務費

円

賃率差異

円

借方差異

貸方差異

いずれか正しい方を○で囲みなさい。

各論演習 4-1

issue ✓ 間接経費の消費（支払経費、測定経費、月割経費、発生経費）

問1)

3月31日が決算日のギルクリスト(株)のセント・リューク工場における8月の下記資料にもとづいて、①間接経費の消費額を求め、②8月の仕訳を示しなさい。

1. 支払経費に関する資料

事務用消耗品費 当月現金購入額12,450円

旅費交通費 前月末払額4,500円 当月現金支払額13,000円 当月未払額2,800円

2. 測定経費に関する資料

(1) 電力料 当月現金支払額25,000円 当月測定額24,000円

(2) ガス代は毎月25日の検針にもとづいて支払っている。

当月現金支払額6,800円

当月消費量490m³ 基本料金2,000円/月 従量料金9円/m³

3. 月割経費に関する資料

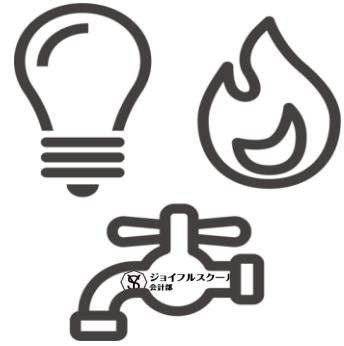
減価償却費 年額780,000円

修繕引当金繰入額 年間見積額24,360円

保険料 24か月分 9,720円を前期末に支払っている。

4. 発生経費に関する資料

材料の帳簿棚卸高は250,000円、実地棚卸高は248,139円であった。なお、棚卸減耗は正常なものである。





各論演習 4-2

issue ✓外注加工（無償支給、直接経費）

問1)

201に組み込む材料を外注業者に無償で支給し、メッキ加工を依頼した。加工後、当該加工品を直ちに工場作業現場へ引渡した。本日加工賃30,000円を小切手を振り出して支払った。本日の仕訳を示しなさい。

<使用できる勘定科目>

仕掛品 製品 製造間接費 当座預金

解1)

借方	貸方



各論演習 5-1

issue ✓ 実際配賦率の算定と実際配賦

問1)

次の資料にもとづいて、①No.101、No.102に配賦される製造間接費を計算し、②製造間接費を配賦する際の仕訳を示しなさい。

(資料) ベリンジャー工業(株)のホープ工場は、製造間接費の各月実際発生額を、各月の実際機械運転時間を基準に配賦している。

当月の製造間接費勘定に集計された製造間接費は11,000円、機械運転時間は22時間 (No.101に15時間、No.102に7時間) である。

解1)

① No.101、No.102に配賦される製造間接費

No.101 円No.102 円

② 製造間接費を配賦する際の仕訳

(単位：円)

借方		貸方	
<input type="text"/>	11,000	<input type="text"/>	<input type="text"/>

各論演習 5-2

issue	✓いろいろな基準操業度（実際的生産能力と期待実際操業度）
-------	------------------------------

問1)

ルーカス工場では、機械運転時間を基準に製造間接費を予定配賦している。次の資料にもとづいて、各設問に答えなさい。

(予算資料)

- (1) 当工場の実際的生産能力は2,500機械運転時間/年、期待実際操業度は2,200機械運転時間/年である。
- (2) 当工場の製造間接費予算（年間）は各操業水準に対して次のとおりである。

機械運転時間	製造間接費
2,200時間	1,584,000円
2,500時間	1,700,000円

(当月資料)

今月の当工場の実際機械運転時間は192時間であった。

【設問1】 基準操業度を実際的生産能力とした場合の年初までに決定しておく①予定配賦率、②当月予定配賦時の仕訳を示しなさい。

【設問2】 基準操業度を期待実際操業度とした場合の年初までに決定しておく①予定配賦率、②当月予定配賦時の仕訳を示しなさい。

解1)

【設問1】 実際的生産能力の場合

① 予定配賦率 円/時間

②	借方	貸方

【設問2】 期待実際操業度の場合

① 予定配賦率 円/時間

②	借方	貸方



各論演習 5-3

issue ✓ 予定配賦率の算定と予定配賦

問1)

パレット工場の時系列で記した下記について、それぞれ答えなさい。

- ① 予算作成（予定配賦率の算定）
向こう1年間の予定機械運転時間が18,000時間、予定製造間接費が9,000,000円と見積った。
そこで、機械運転時間を製造間接費の配賦基準として予定配賦率を計算しなさい。
- ② 当月の予定配賦額の計算
製造間接費を機械運転時間を基準に配賦する。当月の機械運転時間は1,375時間（# 101に対して750時間、# 201に対して625時間）であった。
そこで、# 101、# 201への予定配賦額と、仕訳を示しなさい。
- ③ 当月の実際発生額の集計
当月の実際発生額を集計すると、間接材料費123,000円、間接労務費450,000円、間接経費120,300円であった。
そこで、実際発生額を製造間接費へ振り替える仕訳を示しなさい。
- ④ 当月の製造間接費配賦差異の把握
当月の予定配賦額と実際発生額の差額を製造間接費配賦差異勘定へ振り替える仕訳を示しなさい。
- ⑤ 会計期末の配賦差異の会計処理
会計期末となった。上記④の月以外の各月において、製造間接費の配賦差異は生じなかった。当期の製造間接費配賦差異を上原価勘定に振り替える仕訳を示しなさい。

解1)

① 予定配賦率 円/時間

② # 101への予定配賦額 円

201への予定配賦額 円

借方	貸方

③

借方	貸方

④

借方	貸方

⑤

借方	貸方

各論演習 5-4

issue ✓ 予算差異と操業度差異

問1)

ヒルダ工場は、製造間接費予算の設定に固定予算を採用している。

そこで、次の資料にもとづき、当月の製造間接費配賦差異を計算し、さらに予算差異と操業度差異に分析しなさい。また、製造間接費を仕掛品に配賦する仕訳、製造間接費の実際発生額の集計に係る仕訳、製造間接費を配賦差異勘定に振り替える仕訳を示しなさい。

(資料)

- ① あらかじめ年度の最初に、年間基準操業度が18,000機械運転時間、年間予定製造間接費が9,000,000円と見積っている。
- ② 当月の実際機械運転時間は1,375時間
- ③ 当月の製造間接費実際発生額は693,300円であった。

問2)

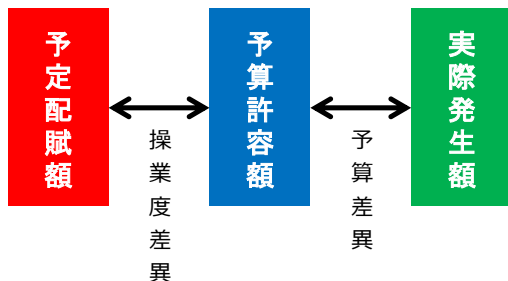
トリロー二工場は、製造間接費予算の設定に公式法変動予算を採用している。

そこで、次の資料にもとづき、当月の製造間接費配賦差異を計算し、さらに予算差異と操業度差異に分析しなさい。また、製造間接費を仕掛品に配賦する仕訳、製造間接費の実際発生額の集計に係る仕訳、製造間接費を配賦差異に振り替える仕訳を示しなさい。

(資料)

- ① あらかじめ年度の最初に、年間基準操業度が18,000機械運転時間、年間予定製造間接費が9,000,000円（変動費が5,040,000円、固定費が3,960,000円）と見積っている。
- ② 当月の実際機械運転時間は1,375時間
- ③ 当月の製造間接費実際発生額は693,300円であった。

(参考)



解1)

製造間接費配賦差異		円	借方差異	貸方差異
予算差異		円	借方差異	貸方差異
操業度差異		円	借方差異	貸方差異

いずれか該当する方に○を付しなさい。

仕訳 ● 製造間接費を仕掛品に配賦する仕訳

借方		貸方	

● 製造間接費の実際発生額の集計に係る仕訳

借方		貸方	
		材料	×××
		賃金	×××
		経費	×××

● 製造間接費を配賦差異に振り替える仕訳

借方		貸方	

解2)

製造間接費配賦差異		円	借方差異	貸方差異
予算差異		円	借方差異	貸方差異
操業度差異		円	借方差異	貸方差異

いずれか該当する方に○を付しなさい。

仕訳 ● 製造間接費を仕掛品に配賦する仕訳

借方		貸方	

● 製造間接費の実際発生額の集計に係る仕訳

借方		貸方	
		材料	×××
		賃金	×××
		経費	×××

● 製造間接費を配賦差異に振り替える仕訳

借方		貸方	

各論演習 6-1

issue ✓ 第1次集計

問1)

次の当月の資料にもとづいて、株式会社バスカヴィル製作所ダートムア工場の当月の①部門費配賦表を完成させ、②製造間接費の集計と配賦（第1次集計）の仕訳を示しなさい。なお、配賦基準は最も合理的と考えられるものを選ぶこと。

(当月の資料)

1. 部門個別費	X製造部門	Y製造部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
間接材料費	980,603円	609,074円	608,976円	405,815円	-
間接労務費	924,707円	239,310円	289,077円	318,523円	182,111円
2. 部門共通費					
間接労務費		397,440円			
工場建物減価償却費		466,655円			
電力料		157,952円			
3. 配賦基準	X製造部門	Y製造部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
電力消費量	48kwh	50kwh	6kwh	17kwh	7kwh
床面積	80㎡	75㎡	30㎡	5㎡	9㎡
従業員数	56人	43人	7人	6人	3人

【使用できる勘定科目】

間接材料費	間接労務費	工場建物減価償却費	電力料	製造間接費	X製造部門費	Y製造部門費
動力部門費	修繕部門費	工場事務部門費				

解1)

① 部門費配賦表

1889年10月

部門費配賦表

(単位：円)

費目	配賦基準	合計	製造部門		動力部門	補助部門	
			X製造部門	Y製造部門		修繕部門	工場事務部門
部門個別費							
間接材料費							-
間接労務費							
部門共通費							
間接労務費							
工場建物減価償却費							
電力料							
部門費							

② 仕訳

製造間接費の集計

借方		貸方	
製造間接費		間接材料費	
		間接労務費	
		工場建物減価償却費	
		電力料	

製造間接費の配賦 (第1次集計)

借方		貸方	



各論演習 6-2

issue ✓ 第2次集計（直接配賦法）

問1)

デジタルコンテンツ制作会社ステーブルトン株式会社のパディントン工場における下記当月（10月）資料にもとづいて、①直接配賦法による当月の部門費配賦表を完成させ、②補助部門費の製造部門への振替仕訳を行いなさい。

（10月資料）部門共通費及び補助部門費の配賦基準

配賦基準	映像部	音響部	動力部	修繕部	事務部
従業員数	90人	70人	10人	16人	14人
修繕時間	160時間	120時間	73時間	14時間	3時間
電力消費量	120kwh	100kwh	30kwh	20kwh	25kwh

【使用できる勘定科目】

映像部費 音響部費 動力部費 修繕部費 事務部費

解1)

Ver.Nov-24



①部門費配賦表

ステーブルトン株式会社 パディントン工場

1888年10月
(単位：円)

部門費配賦表

費目	配賦基準	合計	製造部門		補助部門		
			映像部	音響部	動力部	修繕部	事務部
部門個別費	-	1,481,478	526,777	554,901	228,270	89,624	81,906
部門共通費	従業員数	0					
部門費							
事務部費	従業員数						
修繕部費	修繕時間						
動力部費	電力消費量						
製造部門費							

②補助部門費の製造部門への振替仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額





各論演習 6-3

issue ✓ 第2次集計（簡便な相互配賦法）

問1)

次の資料にもとづいて、株式会社モーター工業ターピー工場における当月の部門費配賦表を相互配賦法にて完成させなさい。当工場で採用している相互配賦法は、簡便法としての相互配賦法であり、第1次配賦は純粹の相互配賦法によって行うが、第2次配賦は直接配賦法によって行う。なお、配賦基準は最も合理的と考えられるものを選びなさい。

<資料>

部門費

機械部	組立部	運搬部	検査部	労務部	合計
999,999円	782,679円	243,000円	224,000円	96,000円	2,345,678円

補助部門配賦基準

	機械部	組立部	運搬部	検査部	労務部	合計
運搬量（箱）	50	30	5	6	4	95
検査時間（時間）	960	480	240	-	-	1,680
従業員数（人）	30	60	18	12	17	137

解1)
モーター工業ターピー工場

Ver.Nov-24



部門費配賦表

(単位：円)

費目	合計	製造部門		補助部門		
		機械部	組立部	運搬部	検査部	労務部
部門費	2,345,678	999,999	782,679	243,000	224,000	96,000
第1次配賦						
労務部費						
検査部費						
運搬部費						
第2次配賦						
労務部費						
検査部費						
運搬部費						
製造部門費						



各論演習 6-4

issue ✓ 第1次集計+第2次集計、製造部門費の予定配賦

問1)

パリオアマシナリー社のトラファルガー工場における9月の製造間接費等に関する資料等は下記のとおりである。資料等を用いて必要な計算を行い、解答欄の①製造間接費部門別配賦表を完成させ、②諸勘定に正しい金額または相手勘定科目を記入しなさい。なお、諸勘定の空欄すべてに記入されるとは限らない。その場合は空欄のままでもよい。

<9月の資料と留意事項>

1. 部門個別費の当月実績は次のとおりである。

	塗装部	組立部	動力部	修繕部	経理労務部
補助材料費	608,420円	208,310円	381,148円	86,593円	127,070円
間接工賃金	663,802円	334,801円	152,452円	156,207円	74,530円

2. 部門共通費の当月実績は次のとおりである。費目別に適切な配賦基準を選び、各製造部門と各補助部門に実績額を配賦している。なお、福利施設負担額は従業員数にもとづいて配賦している。

福利施設負担額	80,000円
建物減価償却費	220,000円
機械保険料	240,000円

3. 補助部門費は、適切な配賦基準を選び、各製造部門に直接配賦法で実際額を配賦している。

4. 部門共通費及び補助部門費の配賦基準に関する当月実績は次のとおりである。

	塗装部	組立部	動力部	修繕部	経理労務部	合計
従業員数 (人)	20	10	4	4	2	40
占有面積 (㎡)	300	500	120	60	20	1,000
修繕時間 (時間)	90	80	20	10	—	200
機械帳簿価額 (万円)	1,080	270	216	54	—	1,620
電力消費量 (kw)	800	400	300	200	100	1,800

5. 製造部門費は製造部門の勘定から仕掛品勘定に予定配賦している。当月の予定配賦額は塗装部門が2,220,000円（予定配賦率740円/時間×直接作業時間3,000時間）で、組立部門が1,120,000円（予定配賦率3,500円/時間×機械稼働時間320時間）である。

解1)

9月

①製造間接費部門費配賦表の完成

Ver.Nov-24



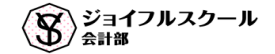
製造間接費部門費配賦表

(単位：円)

費目	配賦基準	合計	製造部門		補助部門		
			塗装部	組立部	動力部	修繕部	経理労務部
部門個別費							
補助材料費	—						
間接工賃金	—						
部門共通費							
福利施設負担額	従業員数						
建物減価償却費							
機械保険料							
部門費							
経理労務部費							
修繕部費							
動力部費							
製造部門費							

②諸勘定の記入

Ver.Nov-24



製造間接費

諸口		諸口	
----	--	----	--

塗装部費

製造間接費		仕掛品	
経理労務部費			
修繕部費			
動力部費			

組立部費

製造間接費		仕掛品	
経理労務部費			
修繕部費			
動力部費			

経理労務部費

製造間接費		塗装部費	
		組立部費	

修繕部費

製造間接費		塗装部費	
		組立部費	

動力部費

製造間接費		塗装部費	
		組立部費	

仕掛品

塗装部費			
組立部費			

製造部門費配賦差異



各論演習 7-1

issue ✓ 製造直接費の直課と製造間接費の配賦 ✓ 原価計算表の作成 ✓ 仕掛品勘定の記入 ✓ 補修

問1)

スクウェア製作所のガーミッサ工場における当月の資料にもとづいて、①製造指図書別原価計算表を完成させ、②仕掛品勘定の記入を行い、③当月の完成品原価を計上する仕訳を行いなさい。なお、当月に製造指図書 # 101とNo.201は完成したが、# 301は月末現在仕掛中である。また、# 101は前月に製造着手したもので、前月末までに消費された原価は90,300円であった。

(資料)

1. 直接費の当月消費額

	直接材料費	直接労務費
# 101 :	47,500円	74,700円
# 201 :	55,000円	97,255円
# 301 :	33,900円	21,756円

3. 製造間接費の当月配賦

製造間接費勘定に集計された当月の製造間接費は、工場全体で252,800円である。これを各製品の機械運転時間を配賦基準として各製造指図書に配賦する。当月の機械運転時間は以下のとおりである。

# 101 :	187.5Mh
# 201 :	275.0Mh
# 301 :	169.5Mh

4. 製造指図書 # 201の製造中に仕損が生じたので、補修指図書 # 202を発行して補修を行った。補修指図書に集計された原価は、直接材料費5,000円、直接労務費800円である。なお、補修製造指図書 # 202に集計された5,800円を、直接経費として製造指図書 # 201に賦課した。

解1)

①製造指図書別原価計算表

	# 101	# 201	# 202	# 301	合計
前月繰越					
直接費	材料費				
	労務費				
間接費					
小計					
仕損費					
合計					
備考					-

②仕掛品勘定

	借方	貸方
前月繰越		当月完成高
材料		次月繰越
賃金		仕損費
製造間接費		
仕損費		

③仕訳

借方	貸方

各論演習 7-2

issue	✓作業屑
-------	------

問1)

個別原価計算を採用しているスコウラーズ製作所のヴァーミッサ工場とパールストーン工場について、以下の間に答えなさい。

Factory **V**ermissa

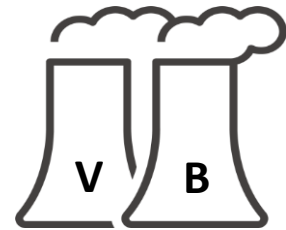
ヴァーミッサ工場は当月に切削・加工により#V-1を製作した。また、#V-1を製作するために作業屑が発生し、作業屑は30円の材料としての利用価値があると見込んだ。

そこで、作業屑に係る下記仕訳を完成させなさい。

Factory **B**irstone

パールストーン工場は当月に切削・加工により#B-1を製作した。また、切削部門において作業屑が発生し、評価額は30円と見込んだ。

そこで、作業屑に係る下記仕訳を完成させなさい。



解1)

Factory **V**ermissa

借方		貸方	
作業屑	30		30

Factory **B**irstone

借方		貸方	
作業屑	30		30

各論演習 8-1

issue ✓ 材料の始点投入 ✓ 材料の平均投入 ✓ 材料の途中投入



問1)

デマリースイーツ(株)は、とてもおいしい苺ショートケーキで有名な会社である(エドワード七世も食したという)。当該会社から当月の原価計算を依頼された。そこで、次の資料をもとに、平均法によって、①月末仕掛品原価、②完成品原価、③完成品単位原価を求め、④製品完成時の仕訳を示しなさい。

(資料)

1. 苺ショートケーキは、スポンジケーキを工程の始点で投入し、生クリームは工程を通じて平均的に塗りたくり、チョコレートプレートは工程の進捗度ちょうど半分の地点で飾り、苺は工程の終点でのせている。

2. 当月の生産データ

月初仕掛品	40個	(0.2)
当月投入	60個	
合計	100個	
月末仕掛品	20個	(0.8)
完成品	80個	

() 内の数値は加工進捗度である。



3. 原価データ

	月初仕掛品原価	当月製造費用
スポンジケーキ	10,680円	16,320円
生クリーム	1,080円	14,520円
チョコレートプレート	0円	16,000円
苺	0円	6,600円
パティシエ等の加工費	2,160円	29,040円

解1)

① 月末仕掛品原価 円② 完成品原価 円③ 完成品単位原価 円

借方	貸方
<input type="text"/>	<input type="text"/>

各論演習 8-2

issue ✓ 加工費が予定配賦されている場合

問1)

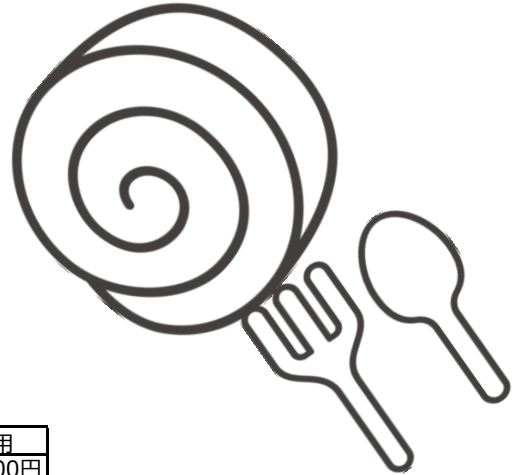
デマリースイーツ(株)は、とてもおいしい苺ショートケーキのみならず、ロールケーキでも高名な会社である(エドワード七世も大好きだったという)。当該会社から当月の帳簿記入を依頼された。そこで、次の資料をもとに先入先出法によって、仕掛品勘定と加工費勘定を完成させなさい。

(資料)

- ロールケーキの材料は、すべて工程の始点で投入している。
- 加工費は直接作業時間を配賦基準として予定配賦している。
(年間) 加工費予定額：348,000円
(年間) 予定直接作業時間：21,750時間
- 当月の生産データ

月初仕掛品	40個	(0.2)
当月投入	60個	
合計	100個	
月末仕掛品	20個	(0.8)
完成品	80個	

() 内の数値は加工進捗度である。



4. 原価データ

	月初仕掛品原価	当月製造費用
生クリーム等の直接材料費	37,850円	53,400円
パティシエ等の加工費	2,789円	?円

当月の実際直接作業時間は1,815時間であり、加工費実際額は30,151円であった。

解1)

仕掛品	
前月繰越	製品
材料費	次月繰越
加工費	製造間接費

加工費	
諸口	仕掛品
	加工費配賦差異
	製造間接費

各論演習 8-3

- issue
- ✓ 仕損費の完成品のみ負担（評価額あり）（平均法）
 - ✓ 仕損費の両者負担（評価額あり）（平均法）

問1)

飲料メーカー(株)グルーナーの下記資料により、平均法によって各問に答えなさい。

(資料)

1. 生産データ			
月初仕掛品		60個	(20%)
当月投入		102個	
合計		162個	
仕損		12個	
月末仕掛品		30個	(80%)
完成品		120個	

() 内の数値は加工進捗度である。

2. 原価データ

	月初仕掛品原価	当月投入
直接材料費	8,010円	12,240円
加工費	1,620円	21,780円

(注1) 直接材料はすべて工程の始点で投入している。

(注2) 仕損は、通常発生する程度のものであり、1個あたりの評価額は45円である。これは材料を再利用できることによる節約額である。

【問1】 正常仕損が終点で発生した場合の、月末仕掛品原価、完成品原価および完成品単位原価を計算しなさい。

【問2】 正常仕損の発生点が加工進捗度50%の場合の、月末仕掛品原価、完成品原価および完成品単位原価を計算しなさい。なお、正常仕損品の評価額は全額直接材料費の計算で控除する。

解1)

【問1】 月末仕掛品原価 円

完成品原価 円

完成品単位原価 円

【問2】 月末仕掛品原価 円

完成品原価 円

完成品単位原価 円

各論演習 8-4

- issue
- ✓ 仕損費の完成品のみ負担（評価額あり）（先入先出法）
 - ✓ 仕損費の両者負担（評価額あり）（先入先出法）

問1)

陶器メーカー(株)グルーナーの下記資料より、先入先出法によって各問に答えなさい。

(資料)

1. 生産データ			
月初仕掛品		60脚	(20%)
当月投入		102脚	
合計		162脚	
仕損		12脚	
月末仕掛品		30脚	(80%)
完成品		120脚	

() 内の数値は加工進捗度である。

2. 原価データ

	月初仕掛品原価	当月投入
直接材料費	8,010円	12,240円
加工費	1,620円	21,780円

(注1) 直接材料はすべて工程の始点で投入している。

(注2) 仕損は、通常発生する程度のものであり、1脚あたりの評価額は45円である。これは材料を再利用できることによる節約額である。

【問1】 正常仕損が終点で発生した場合の、①月末仕掛品原価、完成品原価および完成品単位原価を計算しなさい。また、②月末における製品完成の仕訳を示しなさい。

【問2】 正常仕損の発生点が加工進捗度50%の場合の、①月末仕掛品原価、完成品原価および完成品単位原価を計算しなさい。なお、正常仕損品の評価額は全額直接材料費の計算で控除する。また、②月末における製品完成の仕訳を示しなさい。

解1)

【問1】

① 月末仕掛品原価 円完成品原価 円完成品単位原価 円

借方	貸方
<input type="text"/>	<input type="text"/>

【問2】

① 月末仕掛品原価 円完成品原価 円完成品単位原価 円

借方	貸方
<input type="text"/>	<input type="text"/>

各論演習 9-1

issue ✓累加法 ✓半製品がある場合

問1)

ガリデブ製作所は、「ピカピカ勉強机」を連続大量生産しており、工程別総合原価計算を実施している会社である。具体的な生産過程は、唯一の材料である木材を第1工程の最初に投入し、部品の形に切断した後、第2工程で組み立てている。

以下の当月の資料により①解答欄の金額を答え、②解答欄の各仕訳を示しなさい。

(資料)

1. 生産データ

	第1工程		第2工程	
月初仕掛品	240台	(0.30)	160台	(0.50)
当月投入	1,440台		1,120台	
合計	1,680台		1,280台	
月末仕掛品	400台	(0.40)	320台	(0.05)
完成品	1,280台		960台	

() 内は加工進捗度を示す。

2. 第1工程完成品のうち、一部は半製品（「お客様による組立てキット」）として外部に売却されており、ほかはすべて第1工程完成品として第2工程に投入されている。なお、当製作所は、第1工程完成品のすべてを一旦、半製品勘定に振り替えている。

3. 原価データ

		第1工程	第2工程
月初仕掛品原価	材料費	225,000円	－
	前工程費	－	112,500円
	加工費	38,250円	60,238円
当月製造費用	材料費	1,035,000円	－
	前工程費	－	?
	加工費	1,109,250円	952,448円

なお、月初に半製品の在庫はなかった。

4. 原価配分方法は、第1工程は平均法、第2工程は先入先出法によっている。

【使用できる勘定科目】

第1工程仕掛品 第2工程仕掛品 半製品 製品
売上原価

解1)

①

(単位：円)

第1工程月末仕掛品原価	
第2工程月末仕掛品原価	
月末半製品原価（「お客様による組立てキット」月末棚卸高）	
完成品原価（「ピカピカ勉強机」原価）	

② 第1工程の完成の仕訳

借方	貸方

第1工程完成品の第2工程への振替仕訳

借方	貸方

第2工程の完成の仕訳

借方	貸方

各論演習 10-1

issue ✓ 組別総合原価計算の特徴 ✓ 各組製品の完成品原価の算定

問1)

以下の問題文と資料より、各設問に答えなさい。

ケアリー珈琲株式会社は、ブルーマウンテンのインスタントコーヒー（粉末）とドリンク（缶製品用）を生産・販売している。いずれの製品も（A）を行っていることから総合原価計算を採用している。また、インスタントコーヒーとドリンクはそれぞれ別個に生産される（B）であるが、共通のコーヒー豆と豆挽機を使用していることから組別総合原価計算を採用している。具体的には、豆を挽くための労務費や経費などの組間接費は、豆挽機の機械運転時間を基準に行う。また、月末仕掛品の評価は、インスタントコーヒーが先入先出法、ドリンクが平均法で行っている。

さて、3月の生産データと原価データは（資料）のとおりである。

（資料）

1. 生産データ

	インスタントコーヒー	ドリンク
月初仕掛品	3,075個 (2/3)	2,050ℓ (1/2)
当月投入	24,600個	18,450ℓ
合計	27,675個	20,500ℓ
月末仕掛品	7,175個 (1/2)	5,125ℓ (4/5)
完成品	20,500個	15,375ℓ
豆挽機 機械運転時間	150	108

いずれの組製品も直接材料は始点においてすべて投入する。また、（ ）内の数値は加工進捗度を示す。

2. 原価データ

		インスタントコーヒー	ドリンク
月初仕掛品	直接材料費	738,000円	394,625円
	加工費	717,500円	328,000円
当月投入	直接材料費	5,412,000円	3,705,375円
	加工費	4,089,750円	1,578,500円
	組間接費	6,611,250円	

【設問1】 問題文の空欄に＜語群＞から適切な用語を選び記入しなさい。

＜語群＞

個別受注生産 ・ 連続大量生産 ・ 同種製品 ・ 異種製品

【設問2】 組間接費を各仕掛品に配賦する仕訳を示しなさい。

＜使用できる勘定科目＞

組間接費 ・ インスタントコーヒー（加工費） ・ ドリンク（加工費）

【設問3】 3月の月末仕掛品原価、完成品原価、完成品単位原価をそれぞれ求めなさい。

解1)

【設問1】

(A)	
(B)	

【設問2】

借方	貸方

【設問3】 インスタントコーヒー

月末仕掛品原価		円		
完成品原価		円	完成品単位原価	
				円
ドリンク				
月末仕掛品原価		円		
完成品原価		円	完成品単位原価	
				円

各論演習 11-1

issue ✓ 等級別総合原価計算の特徴 ✓ 各等級製品の完成品原価の算定

問1)

以下の問題文の空欄に〈語群〉から適切な用語を選び記入しなさい。また、(資料)を用いて、等級別の総合原価計算を行ない、完成品総合原価と各等級製品の単位原価を求めなさい。さらに、〈使用できる勘定科目〉から適切な勘定科目を使用し、各組製品完成の仕訳を示しなさい。

当社のアイリーン・アドラー工場では、(A) (商品名「フライドポテト」Lサイズ、Mサイズ、Sサイズの三つ)を生産・販売しているが、(B)であるために、等級別総合原価計算を採用している。具体的には、生産工程の始点でポテトや調味料などの原料をすべて投入し、その後、単一工程で専ら加工することにより「フライドポテト」を完成させる。

(資料)

1. 生産データ		
月初仕掛品	4,800袋	(2/3)
当月投入	40,000袋	
合計	44,800袋	
月末仕掛品	12,300袋	(1/2)
完成品	32,500袋	

2. 原価データ

	原料費	加工費
月初仕掛品原価	921,600円	460,800円
当月製造費用	7,520,000円	5,388,400円

3. 完成品数量の内訳

Lサイズ：6,000袋、 Mサイズ：18,000袋、 Sサイズ：8,500袋

4. フライドポテト1袋当たりの容量

Lサイズ：120g、 Mサイズ：100g、 Sサイズ：80g

5. その他

- ① 生産データの()内の数値は加工進捗度である。
 ② 月末仕掛品の評価方法は先入先出法による。
 ③ 等価係数は各等級製品の1個当たりの容量を用いる。

〈語群〉

同種製品 異種製品 単一製品 複数製品

〈使用できる勘定科目〉

仕掛品(直接材料費) 仕掛品(加工費) 製品(Lサイズ) 製品(Mサイズ) 製品(Sサイズ)

解1)

(A)	
(B)	

完成品総合原価		円
Lサイズの単位原価		円
Mサイズの単位原価		円
Sサイズの単位原価		円

借方		貸方	

各論演習 12-1

issue	✓ 終点で副産物が分離（評価額あり）
-------	--------------------

問1)

ロイロット食品(株)では、“豆腐”を単一工程で製造しているが、工程の終点で副産物である“おから”が分離される。よって以下の資料にもとづいて、解答欄に適当な金額を記入し、豆腐完成の仕訳を示しなさい。

(資料)

1. 生産データ

月初仕掛品	625kg	(1/5)
当月投入	5,000kg	
合計	<u>5,625kg</u>	
月末仕掛品	375kg	(4/5)
差引	<u>5,250kg</u>	
副産物	<u>250kg</u>	
完成品	<u>5,000kg</u>	

直接材料の大豆は始点においてすべて投入する。また、() 内の数値は加工進捗度を示す。

2. 原価データ

	(大豆) 原料費	加工費
月初仕掛品	31,250円	2,250円
当月投入	233,125円	108,750円

3. その他の資料

- ① 月末仕掛品の評価は平均法による。
- ② おからの評価額は、1kgあたり24.288円である。

<使用できる勘定科目> 製品 仕掛品

解1)

月末仕掛品原価		円
(豆腐) 完成品原価		円

借方	貸方

各論演習 12-2

issue ✓月末仕掛品進捗度より前で副産物が分離（評価額あり）

問1)

ヘレン社では、製品Mを生産しているが、工程の1/2の点で副産物であるZが分離される。以下の資料にもとづいて、解答欄に適当な金額を記入しなさい。

(資料)

1. 生産データ

月初仕掛品		625 ℓ	(1/5)
当月投入		5,000 ℓ	
	合計	<u>5,625 ℓ</u>	
月末仕掛品		375 ℓ	(4/5)
差引		<u>5,250 ℓ</u>	
副産物		<u>250 ℓ</u>	
完成品		<u>5,000 ℓ</u>	

直接材料は始点においてすべて投入する。また、() 内の数値は加工進捗度を示す。

2. 原価データ

	材料費	加工費
月初仕掛品	31,000円	2,550円
当月投入	233,000円	108,750円

3. その他の資料

- ① 月末仕掛品の評価は平均法による。
- ② Zは材料として再利用される。Zにより節約される物品見積購入価額は、1 ℓ あたり24円である。

解1)

月末仕掛品原価		円
(豆腐) 完成品原価		円

各論演習 13-1

issue ✓標準原価の計算

問1)

標準原価計算を採用しているギブスン社の次の資料により、①完成品原価、②月末仕掛品原価、③月初仕掛品原価を求めなさい。また、製品完成の仕訳を示しなさい。

(資料)

1. 標準原価カード

直接材料費	標準単価 20円/ℓ	×	標準消費量 1.2ℓ	=	24円
直接労務費	標準賃率 1,200円/時間	×	標準直接作業時間 0.1時間	=	120円
製造間接費	標準配賦率 60円/時間	×	標準直接作業時間 0.1時間	=	6円
	製品1本当たり標準製造原価			=	<u>150円</u>

2. 当月の生産実績

月初仕掛品	2,000本	(0.2)
当月投入	<u>15,000本</u>	
合計	17,000本	
月末仕掛品	<u>3,000本</u>	(0.8)
完成品	<u>14,000本</u>	

なお、材料はすべて工程の始点で投入している。また、()内の数値は加工進捗度を示す。

<使用できる勘定科目> 仕掛品 製品

解1)

① 完成品原価		円
② 月末仕掛品原価		円
③ 月初仕掛品原価		円

借方	貸方

各論演習 13-2

issue ✓勘定記入の方法（パーシャル・プラン、シングル・プラン）

問1)

標準原価計算を採用しているダンパー社の次の資料により、各設問に答えなさい。

(資料)

1. 標準原価カード

直接材料費	標準単価 42,000円/個	×	標準消費量 5個	=	210,000円
直接労務費	標準賃率 2,500円/時間	×	標準直接作業時間 7時間	=	17,500円
製造間接費	標準配賦率 700円/時間	×	標準直接作業時間 7時間	=	4,900円
	製品1台当たり標準製造原価			=	<u>232,400円</u>

2. 当月の生産実績

月初仕掛品	4台	(0.5)
当月投入	<u>10台</u>	
合計	14台	
月末仕掛品	<u>1台</u>	(0.2)
完成品	<u>13台</u>	

なお、材料はすべて工程の始点で投入している。また、()内の数値は加工進捗度を示す。

3. 当月の実際発生額

直接材料費：	2,112,040円
直接労務費：	197,305円
製造間接費：	53,880円

【設問1】 パーシャル・プランによって、仕掛品勘定を完成させなさい（なお、すべての空欄が埋まるとは限らない。）。また、直接労務費の当月消費に関する仕訳を示しなさい。

【設問2】 シングル・プランによって、仕掛品勘定を完成させなさい（なお、すべての空欄が埋まるとは限らない。）。また、直接労務費の当月消費に関する仕訳を示しなさい。

解1)

【設問1】 パーシャル・プラン

仕掛品		(単位：円)	
前月繰越		製品	
材料		次月繰越	
賃金			
製造間接費			

借方	貸方

【設問2】 シングル・プラン

仕掛品		(単位：円)	
前月繰越		製品	
材料		次月繰越	
賃金			
製造間接費			

借方	貸方

各論演習 13-3

issue ✓ 直接材料費と直接労務費と製造間接費（公式法変動予算）の分析

問1)

製品Xを製造するマリア製作所クレイグ・コート工場では標準原価計算制度を採用し、パーシャル・プランによって記帳している。そして、工場長のニール氏は原価管理に役立てるべく、原価要素別に標準原価差異の分析を実施している。次の資料に基づき、下記の設問に答えなさい。なお、解答欄にある（ ）内には、借方差異、貸方差異を記入すること。

(資料)

1. 製品Xの標準原価カード

直接材料費	標準単価 70円/kg	×	標準消費量 2kg	=	140円
直接労務費	標準賃率 1,200円/時間	×	標準直接作業時間 4時間	=	4,800円
製造間接費	標準配賦率 600円/時間	×	標準直接作業時間 4時間	=	2,400円
	製品X1台当たり標準製造原価			=	<u>7,340円</u>

2. 製造間接費変動予算

変動費率：240円/時間 固定費（月間）：2,160,000円

3. 当月の生産実績

月初仕掛品	80台 (80%)
当月投入	<u>1,500台</u>
合計	<u>1,580台</u>
月末仕掛品	<u>130台 (60%)</u>
完成品	<u>1,450台</u>

なお、材料はすべて工程の始点で投入している。また、（ ）内の数値は加工進捗度である。

4. 当月の実際発生額

直接材料費：	<u>72円/kg × 3,077kg = 221,544円</u>
直接労務費：	<u>1,210円/時間 × 5,852時間 = 7,080,920円</u>
製造間接費：	<u>3,514,834円</u>

5. 当月完成品のうち、1,000台を売り上げた（なお、月初製品残高はない。）。

【設問1】 直接材料費の総差異を答えなさい。また、数量差異、価格差異に細分析しなさい。

【設問2】 直接労務費の総差異を答えなさい。また、時間差異、賃率差異に細分析しなさい。

【設問3】 製造間接費の総差異を答えなさい。また、四分法により、予算差異、変動費能率差異、固定費能率差異、操業度差異に細分析しなさい。

【設問4】 解答用紙の①から④の一連の仕訳を示しなさい。

<使用できる勘定科目>

製品 仕掛品 材料 賃金 製造間接費 売上原価 数量差異 価格差異 時間差異 賃率差異
 予算差異 変動費能率差異 固定費能率差異 操業度差異

解1)
【設問1】

総差異		円	()
数量差異		円	()
価格差異		円	()

【設問2】

総差異		円	()
時間差異		円	()
賃率差異		円	()

【設問3】

総差異		円	()
予算差異		円	()
変動費能率差異		円	()
固定費能率差異		円	()
操業度差異		円	()

【設問4】

①完成品原価の振替

借方	貸方

②当期製造原価の計上

借方	貸方

③標準原価差異の計上

借方	貸方

④売上原価の計上

借方	貸方



各論演習 13-4

issue ✓ 製造間接費（固定予算）の分析

問1)

標準原価計算を採用している当社ハンブシャー工場の下記資料に基づいて、固定予算により11月の製造間接費差異を分析しなさい。具体的には、①総差異を②予算差異と③能率差異と④操業度差異に分解しなさい。

<製造間接費のあらかじめ設定しているデータ資料>

- 製造間接費は直接作業時間を基準に標準配賦している。製造間接費の年間予算額は5,544,000円であり、年間の基準操業度は18,480時間である。
- 標準原価カード（一部）

∴				
製造間接費	標準配賦率 ?円/時間 製品X1個当たり標準製造原価	×	標準直接作業時間 10時間	= $\frac{\text{×△○円}}{\text{○×□円}}$

<当月の資料>

- 11月生産実績

月初仕掛品	20個	(50%)	
当月投入	<u>180個</u>		
合計	<u>200個</u>		
月末仕掛品	<u>50個</u>	(10%)	なお、材料はすべて工程の始点で投入している。また、()内の数値は加工進捗度を示している。
完成品	<u>150個</u>		
- 11月の製造間接費実際発生額は447,345円、実際直接作業時間は1,442時間であった。

解1)

①総差異		円	()
②予算差異		円	()
③能率差異		円	()
④操業度差異		円	()

()内には「借方差異」と「貸方差異」のいずれかを明示すること。

各論演習 14-1

issue ✓標準原価計算の財務諸表

問1)

標準原価計算を採用しているトッテナム・コート工場の下記資料にもとづき、①原価差異を売上原価に追加配賦する仕訳を示し、②当月（10月）の月次損益計算書を作成しなさい。

(資料)

- 製品1個当たりの売価は \$ 620である。
- 標準原価カード

直接材料費	\$ 100/kg	×	1kg	=	\$ 100
直接労務費	\$ 40/時間	×	4時間	=	\$ 160
製造間接費	\$ 50/時間	×	4時間	=	\$ 200
製品1個当たり標準製造原価					<u>\$ 460</u>

- 当社の製品は、直接材料を加工の進行に応じて投入し、加工することによって製造している。
- 各月において原価差異が発生した場合は、月次の売上原価に賦課している。
- 10月の資料
 - 製品
月初製品数量：70個 月末製品数量：50個 当月販売数量：？個
 - 製造実績
月初仕掛品数量：40個 月末仕掛品数量：80個 当月製造開始数量：240個 完成品数量：200個
なお、月初の加工進捗度は1/4、月末の加工進捗度は1/2である。
 - 実際原価
直接材料費実際発生額：\$ 23,720
直接労務費実際発生額：\$ 35,210
製造間接費実際発生額：\$ 45,670

<使用できる勘定科目>

仕掛品 製品 直接材料費差異 直接労務費差異 製造間接費差異 売上原価

解1)

①	借方	貸方

②	10月	月次損益計算書	(単位：\$)
I	売上高		
II	売上原価		
	月初製品棚卸高		
	当月製品製造原価		
	合計		
	月末製品棚卸高		
	差引		
	原価差額		
	売上総利益		

(注) 有利差異は金額の前に△を付すこと。



各論演習 15-1

issue ✓全部原価計算と直接原価計算の損益計算書作成 ✓固定費調整

問1)

次の資料にもとづいて、フェルプスマシナリー(株)の下記の設問に答えなさい。なお、製造間接費は実際配賦している。

(資料)

1. 製品単位あたり売価： 100円
2. 製造原価

製品単位あたり変動製造原価：	20円
固定製造間接費（期間総額）：	180円
3. 販売費

製品単位あたり変動販売費：	6円
固定販売費（期間総額）：	20円
4. 一般管理費 すべて固定費（期間総額）： 50円
5. 生産・販売量（単位：台）

	第1期	第2期	第3期
期首在庫量	0	0	1
当期生産量	5	6	3
当期販売量	5	5	4
期末在庫量	0	1	0

(注) 期首・期末仕掛品は存在しない。

- 【設問1】 全部原価計算による各期の損益計算書を作成しなさい。
- 【設問2】 直接原価計算による各期の損益計算書を作成しなさい。
- 【設問3】 直接原価計算と全部原価計算による営業利益の差を計算式で示しなさい。

解1)

【設問1】 全部原価計算による損益計算書 (単位：円)

	第1期	第2期	第3期
売上高			
売上原価			
売上総利益			
販売費及び一般管理費			
営業利益			

【設問2】 直接原価計算による損益計算書 (単位：円)

	第1期	第2期	第3期
売上高			
変動売上原価			
変動製造マージン			
変動販売費			
貢献利益			
固定費			
営業利益			

【設問3】 各期の計算式 (単位：円)

	第1期	第2期	第3期
直接原価計算の営業利益			
+	+	+	+
期末棚卸資産に含まれる製造固定費			
期首棚卸資産に含まれる製造固定費			
全部原価計算の営業利益			

各論演習 16-1

issue ✓本社工場間取引の仕訳 ✓内部利益の控除

問1)

モリアーティ製作所は、マイリンゲン村に本社を有し、そこから徒歩で行けるライヘンバッハの滝の近くに工場を有している。本社と工場はそれぞれ独立した会計をとっている。以下の資料にもとづき、当月（3月）に係る【設問1】～【設問2】に答えなさい。

<資料>

① 本社と工場の取引

材料の購入は、本社が行い、そのすべてを工場へ送付している。この際、内部利益は付加していない。

工場で製造された製品のほとんどは、工場から本社の製品倉庫へ送付している。この際、製造原価の10%の利益を加算している。なお、3月1日における本社の製品倉庫残高はゼロであった。

② 3月1日における工場の元帳諸勘定

残高試算表		(単位：円)
材料	5,000	本社 17,000
仕掛品	10,000	
製品	2,000	
	<u>17,000</u>	<u>17,000</u>

③ 3月の取引

1. 本社が購入した40,000円の材料を工場で受け入れた。
2. 材料を払い出した（直接材料：30,000円、間接材料：12,000円）。
3. 工場従業員への給与支給は25,000円、うち4,000円は預り金である。本社にて21,000円の小切手を振り出した。
4. 工場で労務費を計上する（直接労務費：20,000円、間接労務費5,000円）。
5. 特定の製品製造に関わる当月分の特許権使用料7,000円を本社は支払った。
6. 製造間接費を各製品に配賦した（直接労務費の130%）。
7. 本社工場等製造設備の減価償却費を9,000円計上し、この旨を工場に通知した。
8. 製品が完成した（製造原価：74,000円分）。
9. 製造原価75,000円分の製品を本社へ送付した。

【設問1】 3月の工場において行われる仕訳を行いなさい。ただし、解答に使用する勘定科目は、下記（勘定科目）から選ぶこと。

(勘定科目)

本社 ・ 材料 ・ 仕掛品 ・ 製品 ・ 賃金 ・ 製造間接費 ・ 内部売上 ・ 内部売上原価

【設問2】 3月に工場が本社へ納入した製品のうち、88%が3月中に企業外部へ販売された。3月末日のモリアーティ製作所における内部利益控除後の製品残高及び材料残高を求めなさい。

解1)
【設問1】

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				
6.				
7.				
8.				
9.				

【設問2】

製品残高 円

材料残高 円





各論演習 16-2

issue ✓工場から本社への発送（工場側で製品勘定が無いケース）

問1)

製品100円が完成し、本社の製品倉庫に発送した。当社は本社会計から工場会計は独立させている。工場側の仕訳を示しなさい。

<使用できる勘定科目>

仕掛品 本社 工場 売上 売上原価 製造間接費

解1)

【設問1】

借方科目	金額	貸方科目	金額



各論演習 16-3

issue ✓ 組別総合原価計算と本社工場会計

問1)

組別総合原価計算を採用している当社の工場会計は本社から独立しており、製品に関する勘定は工場に、売上勘定と売上原価勘定は本社に設定している。本日、本社の指示により工場は、製造原価100円の甲組製品と製造原価200円の乙組製品を得意先に発送した。

そこで、当該仕訳を示しなさい。

<使用できる勘定科目>

甲組製品 乙組製品 甲組仕掛品 乙組仕掛品 本社 工場 売上 売上原価

解1)

【設問1】

借方科目	金額	貸方科目	金額



各論演習 17-1

issue ✓ 高低点法による原価の固定分解

問1)

メラス社では製品Aを製造販売している。そこで、次の資料にもとづいて、下記の各問に答えなさい。

(製造間接費の当期予算資料)

当社は、前期の製造間接費実際発生額と実際機械作業時間の月別データから高低点法によって、当期の変動費率と固定製造間接費（月間）の予定を求めている。なお、当社の正常操業度は基準操業度150時間（月間）を100%とすると、その80%から120%である。

前期の製造間接費実際発生額と実際機械作業時間の月別データ

月	製造間接費発生額	機械作業時間
4	£ 141,600	112.50時間
5	£ 142,800	116.25時間
6	£ 157,200	135.00時間
7	£ 165,600	150.00時間
8	£ 171,600	157.50時間
9	£ 180,000	165.00時間
10	£ 158,400	142.50時間
11	£ 151,200	120.00時間
12	£ 164,400	150.00時間
1	£ 166,800	153.75時間
2	£ 172,800	161.25時間
3	£ 193,200	180.50時間

変動費率と固定製造間接費（月間）を求めなさい。

解1)
【問1】

変動費率

£

固定製造間接費

£



各論演習 17-2

issue	✓BEP	✓M/S	✓DOL
-------	------	------	------

問1)

(株)マイクロフトでは製品Aを製造販売している。そこで、次の資料にもとづいて、月間損益分岐点販売量、当月の安全余裕率、当月の経営レバレッジ係数を求めなさい。

(資料)

- ① 製品Aの販売価格は1台10,000円であり、当月の販売量は300台だった。
- ② 単位あたり製造原価
直接材料費 2,000円
直接労務費 2,400円
変動製造間接費 800円
- ③ 固定製造間接費 (月) 640,000円
- ④ 単位あたり変動販売費 400円
- ⑤ 固定販売費及び一般管理費 (月) 548,000円

解1)

損益分岐点販売量 台安全率 %経営レバレッジ係数

各論演習 17-3

issue ✓BES ✓目標営業利益を達成するための計算 ✓感度分析

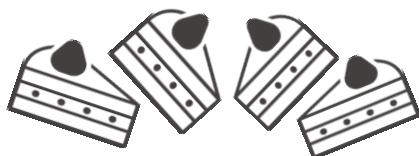
問1)

“甘すぎるショートケーキ”（以下、Aケーキという。）の生産・販売会社である㈱ディオゲネス・クラブは、現在、翌期の利益計画を策定中である。パティシエなどの生産部門や本社へのヒアリングによると、翌期においても、製品単位あたり変動費および年間の固定費額は当期と変わらないだろうという。

そこで、以下の当期の業績を参考に各問を答えなさい。なお、ケーキは生ものなので、仕掛品や製品の在庫はゼロを実現している。

(当期の業績)

売上高			@600円×1,875個		1,125,000円
原価	変動費	変動売上原価	@330円×1,875個	618,750円	
		変動販売費	@60円×1,875個	112,500円	
	固定費	固定製造原価		147,613円	
		固定販売費・一般管理費		111,527円	990,390円
営業利益					<u>134,610円</u>



- 【問1】 当期と同一の販売単価で売るとして、翌期における損益分岐点売上高を計算しなさい。
- 【問2】 当期と同一の販売単価で売るとして、翌期における損益分岐点販売数量を計算しなさい。
- 【問3】 翌期の目標営業利益233,310円と設定した場合の販売数量を計算しなさい。なお、販売単価は当期と同一とする。
- 【問4】 翌期においては、同業他社が新製品“ほどよく甘いショートケーキ”を発表するようである。これに対抗してAケーキの販売単価を10%値下げする案が浮上した。値下してでも当期と同額の営業利益を達成するには、何個販売しなければならないか。
- 【問5】 マーケティング部長によれば、上記【問4】で計算した販売数量は達成が困難であり、販売単価を10%値下げしても販売数量は2,400個が限界とのことである。しかし、この販売単価と販売数量を前提としても、当期と同額の営業利益は達成したい。そこで、固定費に含まれている広告宣伝費を削減することに決定した。固定販売費・一般管理費はいくら以内におさめなければならないか。

解1)

【問1】 円【問2】 個【問3】 個【問4】 個【問5】 円

各論演習 18-1

issue ✓「短期利益計画」と「予算編成」という用語

問1)

下記、問題文の空欄に適切な語句を〈語群〉から選びなさい。また、次期予算損益計算書（営業利益まで）を完成させなさい。

ネクタイピンの生産・販売を行っているオーバーシュタイン株式会社は、直接原価計算を採用している。当期（2023年度）における財務データは以下（資料）のとおりであるが、次期は当期以上に販売体制・生産体制が整い、製品需要も増大していることから、（①）計画において、当期の2倍の営業利益を目標としたい。そこで、（②）における次期予算損益計算書は、売上高を79,898,000円（計画販売量11,414本）として策定する。ただし、他の条件は一定とし、本予算書は社外秘、盗まれないように留意すること。

（資料）

当期売上高：	@7,000円×10,000本	70,000,000円		
当期総原価：	変動費	直接材料費	@2,800円×10,000本	28,000,000円
		直接労務費	@510円×10,000本	5,100,000円
		変動製造間接費	@920円×10,000本	9,200,000円
		変動販売費	@40円×10,000本	400,000円
		合計	@4,270円×10,000本	42,700,000円
	固定費	固定製造原価	14,500,000円	
		固定販売費・一般管理費	8,940,000円	
		合計	23,440,000円	

<語群>

原価管理 ・ 短期利益 ・ 予算編成 ・ 予算統制

解1)

①	
②	

オーバーシュタイン株式会社	
2024年度予算	
予算損益計算書 (単位:円)	
売上高	79,898,000
変動費	
貢献利益	
固定費	
営業利益	